

大相撲九月場所を楽しんだ後で

横綱照ノ富士の休場が発表されたが、個人的には驚きはしなかった。先場所の休場のきっかけとなった時の足腰の状態を見れば、そう簡単に再出場できる状態とは思えなかった。ことによると再起不能かもしれないとさえ感じていたので、休場の報は、「やはりそうか」という感覚だった。

それとともに、大関の地位を守れなくなる力士がまた出てくるのではないかと、その危惧も感じている内に初日。

<1> 序盤(5日目まで)の状況

大関陣では、貴景勝が4勝1敗、霧島が3勝2敗、豊昇龍が2勝3敗という芳しくない出来栄で始まった。

近頃「頼みの綱」と思われている関脇も、大栄翔が2勝3敗、若元春と琴ノ若が3勝2敗と、光り輝くものが見つからない状態。この先どんな展開になるのだろうと、少々不安になってきた。

平幕力士の中で序盤の土俵を湧かせていたのは、北勝富士、阿武咲、豪ノ山、高安、金峰山、熱海富士、剣翔と言ったところだろうか。

<2> 6日目が終わったところで整理してみると

	大関	関脇	小結	平幕
5勝1敗	貴景勝			高安、金峰山、熱海富士
4勝2敗	霧島	若元春、琴ノ若		北勝富士、豪ノ山、阿武咲、御嶽海、妙義龍、剣翔

データだけを一見すると大関がトップを走っているのが、良さそうな形に見えるのだが、貴景勝の相撲は、腰高で前のめりなのが目立ち、守りの安定感と攻めの力強さが感じられず、いつ転けるかなという感じがする。

序盤で低い位置からの力強いおっつけで三大関を連覇した北勝富士の相撲が光っていたが、少々腰砕け。熱海富士の体ごとぶつかって行く荒削りながらパワーのある相撲、高安の落ち着いたしかも力強い相撲、豪ノ山の腰の構えの安定した押し相撲が目立っていた。

<3> 中日を終えて

貴景勝・霧島が崩れ始めて、もう大関の優勝は考えにくい状態になってしまった。

高安の冷静な、腰の決まった取り口と熱海富士の若さのある相撲ぶりが目立ち、序盤で3敗したが今場所好調な力士が何人か持ち直して表の上に現れるようになってきた。

	大関	関脇	小結	平幕
7勝1敗				高安、熱海富士
6勝2敗		若元春		豪ノ山、妙義龍、剣翔
5勝3敗	貴景勝、霧島		翔猿	北勝富士、金峰山、御嶽海、遠藤、阿武咲、

<4> 10日目を終えて

番付上の地位とは関係なく行なわれる「大相撲トーナメント」の様相を示してきた。

好成绩力士同士の直接対決が始まり、節の目から落ちて行く力士が増えてきた。

この日の目玉は1敗の高安と熱海富士の直接対決。土俵際で熱海富士の押しに吹き飛ばされた高安は腰を強打してしばらく立ち上がることができなかった。このまま敗退の道に進まなければ・・・と心配が残った。結果として再入幕、21才の若者がトップを走るようになってしまった。

注目すべきは、鋭いおっつけとハズ押しを主力とする北勝富士、阿武咲と基本的に忠実な低い姿勢からの攻めが冴える遠藤が地道に星をあげていることと、とにかく前へ進むことだけに力を注いでいる熱海富士と剣翔。

高安の動静もさることながら、どことなく安定感が見えない貴景勝にとっても厳しい終盤になった。

	大関	関脇	小結	平幕
9勝1敗				熱海富士
8勝2敗				高安
7勝3敗	貴景勝			北勝富士、阿武咲、遠藤、剣翔

<5> 11日目を終えて

3敗の阿武咲は妙義龍の上手投げに屈して敗退。3敗の遠藤は好調な若手豪ノ山に押し出されてしまい、少々期待した人もいたようだが、残念ながら表から消えてしまった。

3敗同士の対決として北勝富士・剣翔戦が組まれた。北勝富士は頭を下げすぎたところを叩かれて敗退。

熱海富士は小結翔猿を投げ飛ばしてしまい1敗を堅持。高安は関脇大栄翔との取組となったが、前日の熱海富士戦で腰を痛めたようで、腰高で踏ん張りも効かず押し出されてしまい、3敗に後退。

おおかたの心配を裏切って貴景勝は得意の押し相撲で若元春を退けた。

結果としてさらに篩にかけられて、優勝争いは4人に絞られた。

	大関	関脇	小結	平幕
10勝1敗				熱海富士
9勝2敗				
8勝3敗	貴景勝			高安、剣翔

<6> 12日目を終えて

剣翔は宇良の見事な掛け投げに飛ばされて脱落、高安は小結錦木をぎこちない相撲で叩き込んで辛勝。

熱海富士は関脇大栄翔の見事な突き押し相撲に転がされて2敗に後退。続く土俵で貴景勝は琴ノ若を一方的な相撲で下して3敗を守った。

かくして1敗はいなくなり、2敗の熱海富士を先頭に貴景勝・高安が1差で追う形となった。

	大関	関脇	小結	平幕
10勝2敗				熱海富士
9勝3敗	貴景勝			高安、

<7> 13日目を終えて

やはり体に異常が発生していると思われる高安は、北勝富士に送り出されて完敗。

熱海富士と貴景勝の直接対決に注目が集った。結び前の一番で館内は極端に盛上がってしまい、ようやく勝ち越しをかける状態の大関同士の戦いはしらけてしまった。

貴景勝は、入幕間もない21才に敗れたら何と言われるかわからないので、「大関のメンツ」がちらついたに違いない。激しい突き押しに対して巨体を傾けて前傾を保ちながら応戦する熱海富士を最後は寄り切りで制した。これで賜杯争いは、3敗で両力士が並ぶ形になった。

	大関	関脇	小結	平幕
10勝3敗	貴景勝			熱海富士

<8> 14日目を終えて

熱海富士は離れての突き押しを狙う阿炎を捕まえて寄り切り3敗を守ったが、貴景勝は、負け越し寸前の豊昇龍に転がされてあっさり4敗に後退。再び熱海富士がトップに立つ結果になった。

14日目を終えて熱海富士が最も優位に立つことになってしまい、これだけでも驚愕の事態なのに、熱海富士が千秋楽に敗れば11勝4敗の低レベルな優勝になってしまうし、優勝決定戦の可能性まで出てきてしまった。

打出し後に発表された千秋楽の取組は、熱海富士対朝乃山、貴景勝対大栄翔、高安対霧島、北青鵬対豊昇龍。

	大関	関脇	小結	平幕

11勝3敗				熱海富士
10勝4敗	貴景勝	大栄翔		高安、北青鵬

恒例の「私が選ぶ殊勲賞・技能賞・敢闘賞」だが……

熱海富士が優勝することになれば、殊勲賞=熱海富士、敢闘賞=高安または豪ノ山、技能賞=該当なしとしたいが、その他の力士が優勝する事になれば……、もう考えるのが面倒なのでやめておく。

<9> そして千秋楽

熱海富士・朝乃山戦は仕切り中から朝乃山の顔は気迫でみなぎっていたが、一方の熱海富士は緊張で凝り固まっている感じがした。それは、双方の立場や状況を考えれば当たり前のような気がする。

熱海富士も健闘はしたものの朝乃山の一方的な勝利に終わった。

北青鵬も豊昇龍の三所攻めに近いような渡し込みに簡単に敗れて後退。

大栄翔と貴景勝の押し相撲対決は見応えがあった。両力士とも全力を傾けて戦ったが、貴景勝が白星を得た。

結びの一番、高安は霧島の引き落としに転げて敗退。

その結果、11勝4敗の貴景勝と熱海富士による優勝決定戦ということになった。

貴景勝は、立ち合いで熱海富士にまわしを取られまいとして少しずれて立った。熱海富士は低い立ち合いで頭で当たろうとしたのだが足がもつれて流れてしまい、その結果頭が下がりすぎたので、相手の叩きを喰らうことになった。かくして大関貴景勝の4回目の優勝で、番付通りの結末となり幕が下りた。

殊勲賞・技能賞は該当なしで、熱海富士が敢闘賞となった。

	大関	関脇	小結	平幕
11勝4敗	貴景勝			熱海富士
10勝5敗		大栄翔		高安、北青鵬、翠富士、妙義龍

熱海富士の他にも豪ノ山、湘南乃海、翠富士、北青鵬などの若手の活躍が目立った。そんな中で「相撲」をきちんと見せてくれた中堅・ベテランの力士の存在も重みがあって良かった。優勝争いの面白さよりも、個々の取組の面白さの方が勝った場所だった。

<10> 終わってしまうとまた始まる

いつものように、またマスコミ主導で騒がしい動きが始まる。NHKは既に千秋楽の放送の中で叫んでいたし、横審までが囁し立て始めた。さらに、本人もその気になったような発言をしていたのだが……。

私なりの冷やかなコメントを記して今場所の打出しとしたい。

◆貴景勝の直近6場所の成績の推移は下表の如し(赤字は優勝)

R4年11月	R5年1月	R5年3月	R5年5月	R5年7月	R5年9月	直近六場所合計
12勝3敗	12勝3敗	3勝4敗 8休	8勝7敗	全休	11勝4敗	46勝21敗23休

さらに6場所遡ると

R3年11月	R4年1月	R4年3月	R4年5月	R4年7月	R4年9月
12勝3敗	1勝3敗11休	8勝7敗	8勝7敗	11勝4敗	10勝5敗

統計学で言うところの、「傾向から何を読み取るか?」が重要になってくる。瞬間値や最大値にばかり目を向けず、「ばらつき」「偏差値」に目を向ける必要がある。

横綱選びは、瞬間風速や雰囲気を決めるような問題ではないのだということに早く気がついていただきたい。

関脇から大関への昇進の話題になるだろう力士についても、似たようなことが言えるかもしれない。新大関の豊昇龍は8勝7敗、大関二場所目でカド番の霧島は9勝6敗という今場所。

横綱が交代で休場し、大関は頻繁に入れ替わっては「8・7大関」「9・6大関」と化し、何十年か前にあったらしい「星の貸し借り」が常態化するようなことにならなければ良いが……と懸念する昨今。

「強くなるのを待つ」という姿勢が大事ではないかと思うのだが……。

以上